

永年に渡り当園で活動して頂きましたボランティアグループ花水木・永山ひろ子様より活動終了のお手紙を頂きました。花水木様は開設まもなくより活動され、ご利用者様の商店街でのお買い物のお手伝いをして頂き、ご利用者様にとても喜ばれていました。長い間本当にありがとうございました。

＜お手紙の内容＞

平成七年一月に社協のボランティア講座から始まった私たちの活動。最後はいつ収束するかわからないコロナの為、不完全燃焼となってしまい、ちゃんとお礼を申し上げられなかったことが残念です。

長い夏休み、冬休み、梅雨休みなどお休みがたっぷりあったので実際は半分にもならない活動でしたが、我ながらよく続いたものと思っております。お買い物が終わってからもボランティア室で三人でおしゃべりをしたのも楽しい思い出となりました。

安立園のこれからの発展をお祈りしています。
須藤さん、富田さん、私とあわせてこれまでの日々感謝を申し上げます。



井上 相談員 富田さん 須藤さん 原 施設長 永山さん



「花水木」の皆様、ありがとうございました！

事故報告件数

1月	骨折	転倒	脱臼	皮下出血	転落	誤薬	誤嚥	感染	その他	計
特養	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4
短期入所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2月	骨折	転倒	脱臼	皮下出血	転落	誤薬	誤嚥	感染	その他	計
特養	0	2	2	0	0	1	0	0	0	5
短期入所	0	2	0	0	0	1	0	0	1	4

ヒヤリハット報告件数

1月	計
特養	4
短期入所	1
2月	計
特養	2
短期入所	0



事故防止対策委員会
介護副主任
瀬戸口 智子

※安立園独自の事故・ヒヤリハットの区分に基づき集計した件数になります。

3月を迎え今年度も終盤となりました。職員も日々気を付けておりますが、事故・ヒヤリハットは毎月発生してしまっているのが現状です。利用者様が痛い思い、怖い思いをしないよう今後も職員研修を重ね再発防止に努めてまいります

御利用者様の御家族S様より10万円の御寄付がありました。ありがとうございました。車イスの購入等に役立てさせていただきます。

「私の看護・介護に対する思い」

～「7つの基準」を実践する、新人職員の感想文です。ぜひお読みください。～

私が介護の道を目指そうと思ったのは、18年前に祖母が晩年体調不良になり母が祖母の介護をするようになった事がきっかけでした。60代の半ばを過ぎた母が80代の祖母の介護に通う姿を見て老々介護の実態を知りました。離れて暮らす祖母を24時間体制で介護する事は高齢の母には体力的に辛く、引き取って同居も検討していましたが施設に申し込み、入所待ちのさなか入所前に祖母は亡くなってしまいました。

その時の体験から若い世代が高齢の方を支える事が出来たらという思いが強くなり、高齢者の介護をする仕事に就きたいと考える様になりました。人よりも遅い30代でのスタートではありましたが、それまでの事務職から一転ホームヘルパーの資格取得を目指し職業訓練校に通いました。資格を取得した後、地元府中の病院でヘルパーとして看護助手の職に就きました。病院でも入院患者の高齢化が進んでおり、おむつ交換や入浴介助や食事の介助等のお世話を日々行っていました。

数年が過ぎた頃に同僚の看護師に看護の職を進められました。そこで看護の道を志すことになりました。病院では看護の資格が無くては、患者さんにして差し上げられない事も多く、もどかしい出来事が沢山ありました。年齢的に難しいのではないかと不安もありましたが、看護師の同僚に強く背中を押してもらい、思い切って准看護師の資格に挑戦しました。

そのうち50代となり、准看護師として病院で看護職をしている中、スタートの時に感じていた高齢者のお世話をしたいという気持ちを強く抱くようになりました。今まで多くの貢献をされてきた高齢者の方を、何らかの形で今度は私が支えて差し上げたいと想い、地元府中の高齢者施設で仕事をしたいと思いました。今、安立園ではとても充実した日々を送ることができています。出来る限り入所者の方の思いがくみ上げられるよう声を聴き、言葉になりにくい思いを表情やしぐさから感じ取り、出来る限りストレスの無い、穏やかな毎日を過ごして頂けるように努めて行きます。痛みや苦痛を和らげる看護を心掛け、些細な変化を見逃さない様に体調面の支援に努めて行きます。



特養 看護職員

● お亡くなりになられた方 ●

- 〇〇様 93歳 〇〇様 85歳
- 〇〇様 92歳 〇〇様 94歳

施設で看取る事が出来ました。
謹んでご冥福をお祈りいたします